

ある老人ホームに行つた。七、八人で談笑してゐるところに、つえをついたおばあちゃんがニコニコしながらやってきて隣に座った。「神父さん、どこからおいでたのですか」で会話が始まった。「教会に閉じこもつてはいけません。いろんな神父さんに会つて、いろんな教会に行つて、いろんな人と話をしなければ。自分たちだけで固まつてはいけません。出て行かなければいけません。みんなで遠足に行こう。みんなで天国に行

こう」。身振り手振りで力強く語る。言いたいことを言つと、「どっこいしょ」と席を立ててどこかへ行つてしまった▼この方は九十歳近い方で、最近痴ほうが進み、うつむき加減で、あまり元氣ではないそつだ。耳はほとんど聞こえない、と周



りの方が教えてくれた。一日に何回もホームの聖堂を訪れているそつだ。その方がしばらくして、また来られた。「神父さん、どこからおいでたのですか」。そしてまた同じことを繰り返した。「教会はみんなのもの。自分だけ救われてはいけません。みんなで遠足に行こう。みんなで天国に行こう」。楽しそうな表情で力強く語る。「よほどきょうはうれしいんだね」と周りの人の表情も明るい▼ことしもまた、四旬節がやって来る。何かしら暗い雰囲気が漂う。イエスの受難と死、それは苦しみとの壮絶な戦いでもあった。しかし、そのおかげで私たちは救いの恵みを頂いた。そのおかげで復活の喜びを先取りすることができた。苦しみの向こうに、永遠の喜びの希望が生まれた。人生の辛酸をなめ尽くした高齢者の方と一緒にいると、しばし時の流れを忘れ、永遠の世界を垣間見ることができ、肩の凝りが取れて帰途についた。